

市長退任あいさつ

この度、任期満了の7月14日をもちまして3期12年にわたる、うきは市長の職を退任することにいたしました。

平成24年7月15日に、「元気と幸せを！つながろうきは」をスローガンに市長に就任させていただき、これまで市政の舵取りを務めさせていただくことができたのも、ひとえに市民の皆様のご理解とご協力の賜物と心から感謝を申し上げます。



高木市長12年のあゆみ

任期12年を振り返り

市長の思いを聴きました

12年の市政で成し遂げられなかったものはありますか？

「うきは市に今あるものを活かした、まちづくり」

うきは市固有の地域資源（日本百選等）、歴史資源（古墳、山城等）を活かし、他地域とは一味もふた味も違う存在感のある「うきはブランド」を構築できたらと考えておりました。

福岡市から高速を利用して、うきはにお越しになる皆さんが、朝倉インターを下りて、朝羽大橋を渡ると空気が違う、何だかほっこりした気持ちになると云われます。景観10年、風景百年、風土千年と言われますが、うきはには、二千年の歴史、風土が息づいています。このことを「うきはテロワールと悠久の古代史」として市民の皆さんへの説明に努めました。十分に浸透させることができませんでした。

「教育と文化の振興」

市長就任時、我が国は、失われた20年、閉塞感のある社会と云われていました。現在も、世界競争力ランキングでは昨年35位で、国際的に存在感が低下しています。その様な中、日本再生の力ぎは、教育と文化の振興だと思っております。教育については、特に幼児教育が重要と考え、リトミック教育や早期英語音感教育に取り組み、感性豊かな子供育成に努めました。うきは独自の幼児教育にチャレンジできれば良かったと思っております。

文化については、司馬遼太郎著書「アメリカ素描」にあるように、文化的な創造性が求められていると思っております。生活の中に、文化の彩りと薫りが感じられるよう、オランダ王国との文化芸術交流事業「うきはアーティストインレジデンス」や嫩葉会の顕彰事業等に取り組んでいるものの、十分に広めることができませんでした。



2012 (24)	九州北部豪雨災害発生
2013 (25)	(株) 平野屋物産鷹取工場稼働
2014 (26)	うきは市地下水の保全に関する条例制定 お開きはうきはの茶で乾杯条例制定 うきは市10周年記念、うきは市民の歌「ルリ色のふるさと」制作
2015 (27)	市営新火葬場「浄光苑」完成
2018 (28)	福岡県下で最初に地方版総合戦略「うきは市ルネッサンス戦略」を策定 農業生産法人(株) うきはレインボーファーム設立、農業研修施設開設 木造建築の市営住宅「新治団地」が完成
2017 (29)	U・Bic (うきはビジネスカフェ) 開設 道の駅うきは敷地内に野外円形劇場復元 うきはは藤波発電所 発電開始
2018 (30)	三春工業団地に森永食研(株)、(株) ROKI福岡稼働 主要地方道八女香春線「合瀬耳納トンネル」開通
2019 (31)	一般社団法人うきは観光未来づくり公社設立、交流拠点「ウキハコ」開設 うきは6次産業化研究開発・事業化支援センター「夢ラボ」開設 「りり色ふるさと館」開館
2020 (32)	ふるさと納税が4億円を超える 新型コロナウイルス感染症の感染拡大
2021 (33)	高層の市営住宅「高見団地」が完成
2022 (34)	久留米・うきは工業団地に(株) 筑水キャニオン、(株) 資生堂、稼働
2023 (35)	久留米・うきは工業団地に中山リサイクル産業(株) うきは工場稼働 「フェアフィールド・バイ・マリOTT・福岡うきは」開業
2024 (36)	環境省から「脱炭素選考地域」に選定 県営河川山曾谷川河川改修が事業化 今川橋架け替え事業完成 ラグビーチーム「ルリロー福岡」リーグワン参入 高見交差点ラウンドアバウト事業完成予定 うきはは西部工業用地造成の事業化

印象深い取り組みについてお聞かせください

「災害からの復旧」

平成24年7月11日
14日にかけての九州北部豪雨災害です。



市民の方の尊い命を奪い、本市に被害額50億円を超える甚大な被害をもたらしましたが、国や県からの支援を受けるため奔走し、市が行うべき業務は最小限に抑えました。そして、復旧は約3年で果たすことができました。

また、平成29年から7年間毎年、大雨特別警報が発令されるなど、豪雨災害との戦いの連続でしたが、災害については積極的に取り組み、被災状況を自分の目で見て、国や県に対して適切な支援を求め、市民の皆様のご理解とご協力により、復旧復興を進めることができました。

特に、昨年7月10日の記録的な

大雨による甚大な被害については、「巨瀬川流域緊急治水対策プロジェクト」及び「巨瀬川流域治水プロジェクト」の策定を図り、市の公共土木被害345箇所と農地等被害299箇所は令和6年度中に復旧を終える予定となっております。災害に関する国及び県の個別事業で思い出に残るものは、国土交通省による「隈ノ上川河川改修」の事業化、福岡県による「山曾谷川河川改修」の事業化です。

「道の駅うきは」

うきはの里（株）や、西見台出荷組合等の皆さんたちの尽力と共に、国土交通省等の「重点道の駅（全国35箇所）」「防災道の駅（全国39箇所）」の選定、マリオットホテルの誘致等もあり、九州じやらんが実施している九州・山口の人気調査「みんなが好きな道の駅」ランキングで、9年連続第1位に輝きました。



「工業団地の造成と企業誘致」

久留米・うきは工業団地の造成と（株）筑水キャニコム、（株）平野屋物産、中山リサイクル産業（株）、（株）資生堂等の企業誘致、三春工業団地には（株）ROKKI福岡、森永食研（株）、（株）九州イノアックの企業誘致が生まれました。

また、令和6年度にうきは西部工業用地造成（27ヘクタール）の事業化がなされ、新たな企業の誘致と雇用創出が期待されます。

「身の丈に合った、財政運営」

財政知識を深め、合所ダム国有資産等所在市町村交付金の未徴収金（8億円）を確認し、適切に対処することが出来ました。また、小石原川ダム建設事業負担金のうち2分の1を国の補助金の交付を受けるとともに、補助の残りの部分について簡易水道事業債を全額あて、55%を地方交付税で措置することが出来ました。その結果等もあり、市長就任時と比較して、一般会計の基金を増やすとともに、起債を減少することができ、近々大きな財政負担となる、うきは西部工業用地造成事業負担金、浮羽中学校改修事業費、西隈上団地等整備事業費、浮羽消防署及び浮羽出張所の建替えに伴う負担金に充てるなど財源確保に努めてまいりました。

そのほか、市民の日常生活や社会経済活動にも大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症では、国を挙げての感染症対策に歩調を合わせ、また、市独自支援策の実施など精力的に取り組んだことや、国の事業や市の個性あるまちづくり事業等を活用して、民間事業者が空き家を再生することにより、古民家宿やカフェ等の施設が相次ぎオープンしたことなどが印象に残っています。

最後にうきは市民に伝えたい

メッセージはありますか

うきは市は、福岡都市圏から車で1時間も満たない近距離にありながら、水と緑に恵まれ、風光明媚な自然環境、田園風景を今なお保っています。

また、うきは市は二千年以上の歴史があり、多くの古墳や山城などの歴史的資源が存在しています。「うきは」は、近代化、都市化に、ある面取り残され人口減少に苦しんでいます。これから豊さの指標として自然資本が見直される時代が来ると思っております。今後のうきは市のさらなる発展と市民の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたしますとともに、皆様からいただきました、ご厚情、ご支援、ご協力に重ねて感謝とお礼を申し上げ、退任のあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

